

「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」
事業実施報告書

【学校名】 京都府立 鴨沂 高等学校

【全校児童・生徒数】 628 名

【テーマ】 I II III **IV** **V**

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

【実践研究タイトル】

「オリンピック・パラリンピック」に向けた、より良い国際文化交流への提言。
～ジュールグード国際高校（フランス）との文化交流から生まれる絆～

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

第2学年3組「京都文化コース」クラス 生徒42名（男子3名、女子39名）

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値	友情 (○)	卓越 ()	尊重 (○)
	勇気 (○)	決断力 (○)	
	平等 (○)	鼓舞 ()	

姉妹提携校である「ジュールグード国際高校」との文化交流（電子メール）を通して、国際感覚を磨き、コミュニケーション能力を高め、両校の絆を深めるとともに、「オリンピック・パラリンピック」に向けた、より良い国際交流の在り方やホスピタリティ（おもてなし）のあり方についての提言をする。

【種類】

- ・各教科 ()
- ・部活動 ()
- ・道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- ・その他 (学校設定科目・教科 京都文化科「京都文化の発信」)

【実践内容等】

1 事前指導

(1) 「ガイダンス・ワークショップ」 ※以下、ワークショップを「WS」と表記。
 ア ガイダンスー授業目的及びフランス・モンペリエについての基礎知識等。
 イ WS Iージュールグード生との国際文化交流に向けての資料作成。
 (ア) ジュールグード生に紹介したい京都・日本の文化（自文化）。
 (イ) ジュールグード生に紹介してもらいたい、フランス等の文化（異文化）。

(2) 「講義・パネルディスカッション」 講師：観世流シテ方能楽師 河村晴久 氏
 ア 講義ー「国際文化交流・文化発信」に関わる講義。
 イ 対談ー河村氏と本校教諭との、テーマに沿った対談。

(3) 「講義・パネルディスカッション・WS」
 講師：ジュールグード国際高校教員 寺田真紀 氏、
 フィリン・シネード（本校AET）

ア 講義ーフランス、オキシタニ州、モンペリエ市、ジュールグード高校の紹介。
 イ パネルディスカッション（寺田氏・本校AET）ー文化摩擦について考える。
 ウ WS iーフランス語入門。
 エ WS iiーフランス式挨拶入門。





(4) 「講義・パネルディスカッション・WS」

講師：同志社大学准教授 木谷真紀子 氏、同大学フランス留学生3名

ア 講義

(ア) フランス留学生によるプレゼンテーション

「フランスのイメージと実態」「ワインとフランス料理、フランスの地方の違い」「フランスの年中行事」

(イ) 木谷氏による講義

「実はこれもフランス語」「フランス語の挨拶のクイズ」「フランス文学の朗読」

イ ワークショップグループごとに留学生とのワークショップ。



2 インターネットメールによる文化交流

(1) 「メールⅠ」作成WS・送受信ー「自文化の紹介」及び「異文化への質問」

ア ジュールゲード生による紹介(30項目)・質問(30項目)

イ 鴨沂生による紹介(40項目)・質問(130項目)

(2) 「メールⅠ」の質問に対する返答(「メールⅡ」)作成WS・送受信

ア ジュールゲード生による鴨沂生からの質問への返答 120項目

イ 鴨沂生によるジュールゲード生からの質問への返答 35項目

3 ジュールゲード生との文化交流のまとめ・提言

「メールⅡ(ジュールゲード生による鴨沂生からの質問への返答)」を通して。

まとめ項目：①考えたこと。②予想内・外のこと。③相互文化の共通・相違。

④自国文化の良い点。⑤おもてなしに向けての、知識・配慮・提案。

(実践上の工夫点、留意点等)

- ・実態に即した授業展開のために、ネイティブの方や専門家等の外部講師を招聘した。
- ・「ことば」を通じた文化交流をするために、翻訳等について現地教員と連携した。
- ・一般的かつ個別的な交流を目指し、「一般」と「個人」両面から考えるようにした。
- ・交流が、長く継続していけるよう、授業内容が次に繋がり蓄積できるよう工夫した。

(成果)

- ・オリパラにおける文化の祭典を想定し、その意義に即した教育活動のモデルとして提言しうる成果を、本授業「メールによる国際文化交流」でおさめることができた。
- ・様々な人権や社会制度等、社会的・現代的なテーマにも考えを深めることができた。
- ・興味の傾向や配慮事項等、おもてなしの際に必要な知識を蓄積することができた。
- ・姉妹提携初年度に、継続的で高校生の主体的な交流の第一歩を踏み出すことができた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

- ・鴨沂高校個別の成果を、いかに一般化、具体的に提言化していくかについての課題。
- ・国際・異文化理解に欠かせない言語表現に関わる業務面での課題(翻訳、通訳等)。
- ・授業として実施するための、指導形態や外部との連携、予算面などについての課題。
- ・交流の成果を、学校内で共有し、学校全体のものとして取り組む上での課題。